

今年は

と



年です



光あふれる一年となりますように

今年は酉年です。「酉」は鶏のこと。現代の私たちの食卓には毎日のように卵が並び、飲食店などでは鶏肉を使った料理が出されています。私たちにとって、鶏は特になじみの深い鳥と言えるのではないのでしょうか。

鶏が日本の文献に登場したのは、『古事記』が最初だと言われています。太陽の神である天照大御神が、弟・須佐之男命の余りの乱暴な振る舞いに、心を痛めて天岩戸に閉じ籠もってしまう場面。世界は闇に覆われ、災いがあふれてしまいます。困った八百万の神々は、知恵の神である思金神に、天照大御神を岩戸から誘い出す作戦を考えてもらいました。その作戦の初めが、「常世の長鳴鳥」つまり夜明けを告げる鶏を集めて鳴かせることだったので。鶏の鳴き声をきっかけに、裸で踊り狂う、踊り子の天宇受賣命。その姿を見た神々がどつと笑い転げます。外の騒ぎを「何事か」と思った天照大御神は岩戸を開け、再び世界に光が差ししました。

『日本書紀』にも同様に鶏を鳴か

せたとの記述があり、日本神話の世界での鶏は、まさに太陽を呼ぶための存在として描かれています。左上の写真は、市内大泉地区の白鬚神社参道にある鶏の像です。鶏の像が奉納されている神社は全国的にも多く、また、天照大御神を祭る伊勢神宮などでは、境内に鶏が放し飼いにされています。これは、天岩戸の神話からも分かるとおり、鶏が神の使いであると考えられているからです。

目覚まし時計などがなかった時代、毎日規則正しく鳴き、暁を知らせる鶏は、人々の生活に欠かせない鳥でした。一昔前までは農家の庭先などで飼われていることも多く、「コケコッコー!」という甲高い鳴き声を身近に聞くことができました。しかし、近年はそうした機会もめっきり少なくなつたような気がします。

酉年の今年。威勢良く鳴いて太陽の光を呼ぶ鶏にあやかつて、私たちが元気な声で明るい話題を呼び込みたいものです。今年が、皆さんにとって光あふれる一年となりますように。

編集・発行／鶴岡市総務部総務課

鶴岡シルク・タウンプロジェクト

表紙

「kibiso(キビソ)とシルクガールズ」

絹産地の北限であり、絹製品の一連の生産工程が地域内に全て集約されている本市が取り組む「鶴岡シルクタウン・プロジェクト」。鶴岡シルクの伝統・文化を伝えるとともに、絹産業の新たな可能性を切り開くことを目指します。

撮影に協力いただいたのは、蚕が繭を作るときに最初に吐き出す糸「kibiso」を生かした製品づくりに取り組む鶴岡シルク株の大和

匡輔さん、鶴岡シルクを使った衣服をデザイン・製作し、ファッションショー「シルクガールズ・コレクション」を行う鶴岡中央高校「シルクガールズ」の野間桃香さんと藤田海里さん、そして同校教諭の石塚周子さんです。

鶴岡シルクを使用したドレスにkibisoのストールを合わせ、大宝館内に展示してあるkibisoのタペストリー前で撮影しました。



大和匡輔さん、石塚周子さん
藤田海里さん、野間桃香さん